



令和7年6月21日

史跡めぐりウォーキングコース

体育館駐車場出発 ①子檀嶺神社 ②中山城跡
③日向堂にて木造聖観音立像
④不動明王像・コナラの大木 ⑤廣川天神
⑥正念寺→ 体育館駐車場に戻る

中山城跡は、武石小沢根区小字城山の頂にある山城
標高758m、東西26m 南北16mで周囲に土塁が築かれて
いる。佐久の豪族大井孫五郎長信がこの地に移り築
城したものと伝えられる

この山城の北側斜面は急峻で、山麓はがけ状をなし、
直下を武石川が流れている。南側山麓は東西に細長く
伸びた段丘状になっていて、その段丘下を小沢根川が
流れ、武石川と共に天然の堀をなしている要害の山城
である。（武石村誌 村の歴史P230より）

日向堂の木造聖観音立像 上田市指定の有形文化財 像高128cm寄木造
日向堂の本尊で、台座の上に安置され、頭光があり、蓮華を持っています。
像の全体形は平安時代前期の作風で、上田市地域伝来最古の仏像3
体のうちの1体で、10世紀に遡る制作とされています。

（地域自治センターだより武石No108より）

不動明王像 石に刻まれた大きな不動明王が、ミズナラの大木を背にし
て慎ましく厳かな雰囲気です。像の背面には「嘉永元年申
九月廿八日」と刻まれています。西暦1848年です。（住みよい武石をつく
る会広報第36号たけし歴史さんぽ道より一部掲載）

武石村誌 村の歴史
P231 中山城跡の図 より

